

## 研究プロジェクト4「立教中学校関係資料研究」

著者名(日)	田中 智子
雑誌名	立教学院史研究
巻	10
ページ	97
発行年	2013
URL	<a href="http://doi.org/10.14992/00009151">http://doi.org/10.14992/00009151</a>

## 研究プロジェクト4 「立教中学校関係資料研究」

田中智子

二〇一二年四月より、油井原研究員の後を引き継ぎ、研究プロジェクト4の推進を行っている。本年度は主として以下の二つの作業を行った。

まず、昨年度まで油井原研究員が行ってきた、上級学校進学者数のデータ化の作業の継続として、各年度進学者の内、過年度生および四年修了生がどの程度含まれるのかを調査した。具体的には、池袋中高史料室所蔵の『学事報告』（昭和四年～十八年）に記載されている生徒の名簿を参照し、各生徒の卒業（修了）年度を調査することによって、過年度生および四年修了生の存在を明らかにすることを試みた。この作業によって、進学者のうち過年度生および四年修了者がどの程度含まれているのかは明らかになった。しかしながら、依然として進学先が不明な者や、資料によって進学先が異なる者も少なからずおり、さらなる調査が必要とされる。

次に、『官公往復文書』等、池袋中高史料室所蔵の旧

制資料の簿冊の細目作成を行った。これについては、アルバイトの舟橋正真氏に協力をお願いした。当初は紙の目録を作成し研究員に配布したが、Excel データのほうがキーワード検索出来て利便性が高いということで、データを統合してCD-ROM に入れ、各研究員に配布した。細目の中には研究対象となりそうな項目がいくつか散見されており、その中から各研究員の専門分野や関心に沿って研究を進めていくこととなった。現在は新制資料についても細目作成を行っており、今年度中には完了する予定である。

本年度は七月二〇日に研究会を開き、年末にも一度開催する予定であったが、各研究員の都合が合わず開催出来ていない。しかし、一五〇年史編纂に向けて、立教中学校関係資料の研究は急務であるので、来年度以降は研究会の回数を増やして、研究を活性化させていきたい。